

【質問】 ワクチンの接種間隔が変わったと聞きました。どう変わったのでしょうか？

(33歳、主婦)

## ワクチンの接種間隔

【回答】 ワクチンには、生きたウイルスや細菌の毒性を弱めて病原性をなくしたものを接種する「生ワクチン」、病原体の感染能力を失わせたものを利用する「不活化ワクチン」などがあります。昨年10月1日から、こうした異なる種類のワクチンが続けて打つ際に、接種の間隔を定めていた制限が変更されました。

これまで、生ワクチンは27日間、不活化ワクチンは6日間の間隔を置かないと別の種類のワクチンを接種できず、接種後、注射による生ワクチンの接種間隔は従来通り27日間と変わりませんが、そのほかのワクチンは日数制限が撤廃されました。

理由は、乳幼児が激しい嘔吐（おうと）や下痢を起こすロタウイルス胃腸炎の経口生ワクチンが、定期接種となったためです。乳幼児は多くのワクチン接種が必要であり、効率よく接種するために制限撤廃が必要でした。ほかのワクチンとの接種間隔が有効性・安全性に影響を与えるという報告はなく、既に制限を設けていない国が多数あります。

生ワクチンは接種回数が少なく済みますが、十分な免疫が得られない場合があります。一方、外国で新型コロナウイルスに対し承認されたワクチンには



クチンが、定期接種となったためです。乳幼児は多くのワクチン接種が必要であり、効率よく接種するために制限撤廃が必要でした。ほかのワクチンとの接種間隔が有効性・安全性に影響を与えるという報告はなく、既に制限を設けていない国が多数あります。

きるまでに約1カ月が必要で、ロタウイルスのほかに▽麻疹風しん混合▽水痘▽BCG▽おたふくかぜIなどです。不活化ワクチンは▽インフルエンザ菌b型（ヒブ）▽小児肺炎球菌▽B型肝炎▽4

## 昨年、制限をほぼ撤廃 乳幼児向けの効率化目的に

「メッセージジャーRNAワクチン」で、遺伝子情報に基づいて作られています。こうした「遺伝子ワクチン」は、病気の原因物質の遺伝子配列が分かればワクチンを設計できるため、従来より速いスピードで開発することが可能です。今後、がんなどいるんな病気の予防ワクチンとしても期待されています。

予防接種は病気に対する抵抗力を作り、発症や重症化を予防します。多くの人が受けることで、集団での流行を阻止する「集団免疫効果」が発揮され、接種を受けられない人も守ることができ、多くの人がワクチン接種を受け、自身と社会を守ってほしいものです。

(県医師会)

### 質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。